令和4年度 第3回倉敷市地域公共交通会議 議事録

1 会議名　令和４年度第３回倉敷市地域公共交通会議

2 開催日時　令和４年１１月２８日（月）９時３０分～１２時

3 開催場所　倉敷市役所本庁舎　水道局３階大会議室

4 出席者

（１）委員（２２名）

橋本成仁委員、氏原岳人委員、西﨑由美子委員、家守豊委員、横田直樹委員、石野正人委員、岡田和史委員、神宝博委員、平本清志委員、（代）谷口里香委員、楠本雅之委員、宇田雅英委員、池内丈史委員、（代）渡邉聡一郎委員、小松賢治委員、槙尾俊之委員、松嶋泰憲委員、山形信介委員、（代）野田真人委員、江村慶徳委員、亀山貴之委員、山本達也委員

（２）その他

オブザーバー（１名)、事務局（６名)、関係者（２名）

5 議事

（１）協議事項

ア　倉敷市地域公共交通計画素案について

イ　今後のスケジュールについて

（２)報告事項

ア　路線バス・臨鉄無料デーの実施結果について

イ　井原線プレミアムチケットの売上状況について

（３)その他

6 議事次第

（１）開会

（２）委員紹介

（３）会長挨拶

（４）議事

（５）閉会

7 配布資料

次第、委員名簿、配席図

資料１　倉敷市地域公共交通計画（素案）

資料２　今後のスケジュールについて
資料３　無料デー利用実績
【関連資料】井原線プレミアムチケットチラシ

８ 議事内容

（１）開会（事務局）

本会議は、委員総数２５名、代理出席含め出席者２２名で、委員の半数以上の方にご出席いただいておりますので、倉敷市地域公共交通会議設置要綱第８条第２項の規定により会議は成立しています。

また、倉敷市地域公共交通会議の公開要領に基づき、本会議は公開で行われますことをご報告いたします。

（２）委員紹介（事務局）

委員の紹介
関係者の紹介
オブザーバーの紹介

（３）会長挨拶

会長より挨拶
議長より挨拶

（４）議事における発言内容

〔協議事項〕

ア　倉敷市地域公共交通計画素案について
　事務局から説明（資料１）

（議長）

ただいまの説明に対して、何か意見・質問あれば、挙手にて意思表示をお願いします。

（委員）

最終的な評価指標のところで特に気になったことが１点あります。③の公的資金、現状の値に対して目標値があり、下げていこうということだと思いますが、その時々によって公共交通の状況は変わってくるので、下がればいいという問題ではない。公共の交通なので、市の財政負担があって然るべきであり、それが下がればいいというような目標設定では、そもそもいかがかなと思います。

（事務局）

公的資金の投入額が減るという裏には、利用者が増えれば公的資金の額も減るということがあり、ただ減らすということではありません。状況によっては必要な支援をしていくと。必ずしも減らすことが全てではないと思っています。

（委員）

②の公的資金投入路線の収支というのはわからなくもないが、全体が下がればいいというのは非常に短絡的だ

なと感じます。「誰もが」ということを宣言しているし、交通不便地域を小さくしていこうということを目標に掲げている限りは、増えても仕方ないと思います。

（事務局）
　状況によっては増えても仕方ないという場合もあるかと思います。８９ページのグラフを見てもらうと、令和元年～２年にかけて、公的資金の投入額が増えています。コロナ禍において運行継続してもらった交通事業者に対して奨励金を支給したということで、大幅にアップしていますが、こういったことが今後起こらないとも限らない。状況を踏まえながら考えていかないといけないと思います。

（委員）
　状況に応じて変わるのであれば、指標としての意味はあまりないのかなと思います。

（事務局）
　その辺りは、再度考えます。

（議長）
　今の公的資金の投入額は、制度的に入れないといけない指標の一つとなっています。
　国に計画を出す時に必要なもので、入れなければならない。基本的に公的資金の投入額は下げていかないと財政全体の問題があるにしても、前半にたくさんある倉敷市の現状のところに、かなり課題が残っています。つまり市民の４０何％が公共交通を使えないところに住んでいるという状況があり、これを何とかしようとしたときに、今は効率がいいところばかりやっているので、市民１人当たり３００円ぐらいですよね。
　これからは効率が悪いところに広げていこうとしているので、当然投入額は上がるはずです。それを前提に考えたとき、本当にこういう言い方をしていていいのかという指摘だと思います。国の制度上入れなければならないとしても、目標値が、令和９年に達成する見込みが全くない数字だと思われるのですが。
　要は、今までやってなかったということです。今回、それでは駄目だという話で、今までのやり方だと公共交通を提供できなかった地域に提供しようとしているので、今まで以上にお金がかかるところばかり残っているはずです。そこを何とかしようとすると、今の何倍も使うことになります。

（事務局）
　課題の解決も踏まえて、ただ単に減ればいいということにはならないというご指摘はその通りだと思います。
　どのように目標設定すればいいか、再度検討したいと思います。

（委員）
　交通量や自転車のもの、幾つかの資料で平成３０年に急に増えているのはなぜですか。９２ページや、９６ページでは平成３０年を目標にすると言っていましたが。

（事務局）
　９２ページは平成３０年が突出しています。これは、通常、中心市街地の交通量調査を７月に実施していますが、この平成３０年は７月豪雨災害があったということで、いつもと違う時期、１１月の屏風祭などがある時期に実施したので、ここだけ突出した値になっています。

（議長）
　ここは注記があった方がいいですね。

（委員）
　６の計画の評価の８８ページ、基本目標の②公的資金投入の収支、定義のところですが。以下の方法により算出というところに、路線バスとコミュニティタクシーの計算方法が示されています。これまでの状況の集計中のところには、鉄道、路線バス、コミュニティタクシー、一般タクシーについて市の補助金を投入しているとなっていますが、対象はあくまで路線バスとコミュニティタクシーだけですか。

（事務局）
　８８ページの指標と７７ページの指標が、整合を図るということで、同じものを対象にしたいと考えており、８８ページの書き方が足りていないところがありますが、対象としては、鉄道、路線バス、コミュニティタクシーと考えています。

（委員）
　８９ページの棒グラフで、弊社（水島臨海鉄道）は以前から、倉敷市から設備の維持費に係る補助金をもらっていますが、グラフでは鉄道の青色は、令和２年からいきなり補助実績があるように見えます。その施設設備の維持に係る補助金はここでは対象に入れてないということですか。

（事務局）
　こちらについては、運行に対する負担金と財政負担をしている場合です。他の補助金も確かにありますが、こちらにはカウントしていません。

（委員）
　８９ページの指標の定義のところには、鉄道という言葉が必要ですね。弊社本部に運行に関する補助金はないので、該当なしということで。８８ページの公的資金導入路線というところも、鉄道も入れてあくまで運行に対する支援ということですね。分かりました。

（委員）
　８８・８９ページで、公的資金投入額のこれまで状況で、計画を５年後、令和９年度を見据えて立てる上で、この令和２、３年は新型コロナウイルスによる突発的なことに対応する資金、補助金が大量に投入された図になっているので、そこと十年間を比べるというのはどうかと。そのせいもあって、負担金の差がかなり激しく見えるのではないかと思います。ここは令和２、３年を入れないといけないのでしょうか。

（事務局）
　言われる通り、令和２、３年というのはコロナ禍の状況で普段とは違うので、入れるにしてもその状況を補足して、「ここはこういう状況で金額が上昇している」というような注意書きが必要だと思います。

（委員）
　この増加分は、令和１年までの補助金制度があった上で、さらに落ち込んだものの補助金だと思うので、指標としてこれが入るとかなりいびつになるのではないでしょうか。私もここはもう少し考えたほうがいいと思います。

（議長）
　消すと何か隠しているように見えるので、コロナの影響に対する補助金があるということを明記する必要があります。

（委員）
　９４ページ、コミュニティタクシーのバリアフリー車両の指標のところで、車両の割合を指標にすると目的ではなく手段が評価されることになります。バリアフリータクシー、ＵＤタクシーの出動回数とか乗車人数などが評価できるのであればそうした方がいいと思います。

（事務局）
　現状としてはコロナ禍において収支の状況が悪い中、国がバリアフリーの方針を立ててバスやタクシーのバリアフリー化について明確な目標を立てて進めています。市としても、その目標を達成するためにこういった計画に位置付けたり、必要な支援を考えたりしていかないといけないと考えています。
　現在は、国の考え方に基づいてこういった指標を作っているところです。

（委員）
　国が示しているからということですか。

（事務局）
　それに対して市はどうなのかというと、達成していません。しかも、コロナで経営の状況があまりよくないので、何らかの形で計画に位置付けて、市としてもこれを目指していこうという考えで、このようにしています。

（委員）
　他のところの項目は利用状況などで示してありますが、ここだけ異質に感じました。

（議長）
　そこは、国が示している値を表にしているということなので、国が示している目標に対して国は何かやっているということですよね。

（事務局）
　導入の補助制度などです。

（議長）
　倉敷市が何もしなくても国はそこまでやろうとしている。倉敷市が何かやれば、さらにオンされるような数字になるべきではないですか。倉敷市は放っておくと宣言しているように見えます。国に任せればこうなりますよ、

というような。

（事務局）
　計画に書いているだけだと国に任せるということになるので、書くと同時に必要な支援等についてもどういったものができるのか今後考えていこうと思います。

（議長）
　市が何かやったときに、国がやったものにさらにプラスアルファが出ます。そうすると目標値は、国の目標値を超えてきて当たり前ではないですか。

（事務局）
　例えばＵＤタクシーの数字は国の目標で２５％に対して、倉敷市は６％と、かなり下回っています。国の補助制度はあるが、それでも２５％に持っていくには厳しいということで、市としても何かできないかと考えた上で、計画に書いています。

（委員）
　岡山運輸支局です。国の補助制度はぜひ使ってもらいたいと思います。また、適宜案内等していきます。このページで、目標値の考え方で、ノンステップバスによる路線バスのバリアフリー化率と書いてありますが、おそらく細かく言えば、ノンステックバスとワンステップも多分入っていると思います。純粋なノンステップバスの比率がこんなに高いわけがないと思うので。あと、いろいろ皆さんから目標の関係で指摘があったので、補足をさせてください。８７ページ年間利用者数、８８ページが路線の収支、８９ページに公的資金投入額、ここについては、補助金を交付するための要綱にこういった目標を定めるように書いてある以上、ここの部分を目標にしてもらわないと補助金が出せなくなってしまいます。令和６年の６月３０日がリミットになっています。こういった部分については、整合性をとらせてもらいたいと思っています。また、漏れがないように、何かおかしいところがあれば、適宜、意見を出していきたいと思っています。
　もう１点、公的資金投入路線の収支について、一応公的資金投入路線に限っていますが、実際おそらくすべての系統の路線収支を把握しておいた方がいいと思っています。おそらく赤字路線でも公的資金投入されてない路線もあると思うので。黒字路線も、年によって黒字幅が変わっている部分もあると思います。その辺りのフォローはお願いしたいです。

（議長）
　ノンステップバスの定義が何か違うのではというところは非常に大事なところなので、ぜひ修正しておいてください。今の説明の中で、８９ページの公的資金投入額というのは、これは目標にしないといけないということだったと思いますが、先ほど話したように、倉敷市で今まであまりやっていなかった状況で、今よりも増額する目標というのはあり得るのでしょうか。

（委員）
　公共交通全体としては、おそらく増えるのでは。ただ、補助金をもらっている路線については、できるだけ収支を上げるような努力はしていただきたい。

（議長）
　現状もらっている路線は頑張ってという話と、総額の話はまた別の話というふうに考えてよろしいですか。

（委員）
　そうですね。

（議長）
　そういうことなので、もう少し細かく聞いておいてください。もらう路線が増えたらどうなるのか、いろいろ聞きたいことがあるので。

（委員）
　２点あり、一つは、９１ページの目標で、最新のデジタル技術等を…というところ。ここで使用しようとしているのが倉敷駅のタッチパネル式の案内版のことかと思います。これについて利用が高まっていくのが一つの指標になっています。そもそもこの目標４がデジタル技術の活用とか、円滑な乗り継ぎ環境の実現という中の一つの目標という位置づけだと思いますが、タッチパネルの利用が増えることで、目標に近づいていくのかが疑問です。もう少し何かやれることはないのかと。
　まだ正式な情報のリリースはできてないが、わかりやすさの向上という面において、弊社（両備バス）ホームページに路線や日時検索ができるようなものを、年内から年度内にかけて備えていこうと思っています。正式な情報はまた案内させてもらえればと思います。参考として情報提供させてもらいながら、検討してもらえればと思っています。もしこれを目標とするのであれば、何か検討している施策などがあれば教えてもらいたいのですが。
　それともう１点は、この会議でも昨年度から問題提起している、弊社の玉島地区の路線維持の問題です。国から示されているサービス継続事業への位置付けを検討してもらいながら、早ければ来年度くらいからサービスの移行があるかもしれないということ関して、こういった方針や計画の中に言及されていなくていいものかどうかと。

（事務局）
　倉敷駅の情報案内版について、現時点では公共交通の利用者になかなか気づいてもらえていません。通常は地図などが示されていて、バスの時刻表というボタンを押さないと、乗り換え案内の表示に切り替わらないので、この辺りを知ってもらうために、市としても、ここういうものが倉敷駅あること、使い方について、ＰＲをやっていかないといけないと思っています。
　玉島地区の件については、まだこの資料には載せていませんが、補助金との連動というところもあるので、計画に載せないといけないと思っています。どう進めていくかについて、今後岡山運輸支局と相談します。その後、交通会議にも諮り、最終的には計画に載せようと考えています。

（議長）
　確かに、駅の情報案内版を活用していただくのも大事だと思いますが、目標４はいろいろなことをやると書いてあります。例えば最後に書いてあるＧＰＦＳ化。ネット上のマップなどで検索したときに、位置情報などが全部わかるようにしていこうということだと思います。要するに今、外国からの観光客も戻ってこさせようというような状況の中で、ネット上のマップで検索できるのはすごく大事なこと。例えば、これがきちんと導入されて

維持されていることを目標にするとか。ここは考えてもいいかという気はしました。他に何か事業者と組んで、さらにもっと魅力的なものがあれば、そちらもあわせて表現するようにすればいいと思います。見直してみてください。

（委員）
　７０ページの目標達成に向けた施策・事業の中で、目標２が修正されていません。「誰もが…」に修正してください。施策の方向性のところで、移動手段の選択肢の多様性確保という文言がありますが、非常に違和感があります。多様性というのは、すでに選択肢があることを前提に、１を２、或いは２を３にしようということだと思います。選択肢の多様性があること自体は非常に重要ですが、倉敷市の問題としては、選択肢がない。つまり、０から１にというところが最も大きな課題であるはずなのに、多様性の確保として、すでにあるところに対して充実させていくようなニュアンスになっています。多様な輸送資源等と書いてありますが、ここで多様性の確保と書く必要があるのですか。

（事務局）
　言われた通り、倉敷市の場合は移動手段がないと言われますので、こちらにつきましては書き方を、０を１にすると示す内容に修正します。

（議長）
　それでいいのですか。資料の中には、倉敷市内全部でタクシーが使えると書いてありました。０ではないはずです。タクシーは公共交通というスタンスですよね。指摘を受けたら、はいそうしますというような条件反射で答えるのは良くないと思います。とにかくタクシーというのは少なくともある。人によって自家用車も使えています。人によってはそれに乗せてもらうという手段もあります。自分で自由に誰かに頼まずに動けて、タクシーで毎日買い物に行くわけにもいかないので、もう少し別の手段が欲しいということで、多様性だと思います。
　事務局はもう少し自分が出したものに対して自信持って発言してください。

（委員）
　質問で、７２ページのタクシーを活用した新たなサービスの検討の中に、現状、相乗りタクシーというのを倉敷タクシーがしていますが、市の計画として事業者名を入れるのは適切なのでしょうか。事業者にとっては宣伝になると思いますが、多くあるタクシー事業者の中で１事業者だけが入っています。現状取り組みをやっているのはここで、これをもっと多くの事業者に広げていきたいという話はあるわけですが、計画としてこの中に事業者名を入れるのは果たしていいのかどうか、行政の方でしっかり考えてもらいたいです。A社とかいう言い方もあるのかなと。
　それと、ＵＤタクシーの導入の件。現状、国の補助制度で、ＵＤタクシーを導入したいと要望を出しても、全国で査定を受けます。実際に、例えば５台入れたいと要望しても、足切りされて例えば１台とかいうような形で。
　予算の関係と承知していますが、一律になってしまう。要するに、事業者が導入しようと取り組んでも、切られてしまうので、そこを地元の行政で後押しできないでしょうか。全国的な事例だと、国プラス自治体の別途単独支援というのは結構あり、そういった形で支援してもらえないかという要望はずっとあります。国の２５％という目標を達成するために、事業者も努力しますが、後押しをしていただけないか。

（議長）
　実態はいろいろ聞いています。私が先ほど発言したのは、自分のところでしっかりやるという意図が見えてこない、国任せ、誰か任せ、事業者任せみたいなところがあるので、そうではなくて、市がやるというところが欲しいです。実態を考えると、２５％ではなく、今、数パーセントのところを例えば１５％に絶対するぞとか。あるいは、倉敷市内の各地区に必ず１台は配置される状況を作るとか。いろいろ別のやり方もあるのではないかという気がします。要は、倉敷市にとってどういう状況が実現可能で、かつ一番価値がある状態なのかを考えた上で、それを表現して欲しいですね。国がこう言っているからこう、事業者が今やっている計画を合わせるとこうなるということではなく。

（委員）
　７３ページ、安定した担い手確保と育成というところで、確かに今、乗務員不足というのがタクシー業界でも非常に課題です。朝晩の繁忙時間に人がいないので３０分以上待ってくださいと言って断られるという状態があると聞いています。この中で、運転免許取得に係る補助制度や接遇研修を実施しますとあり、この補助制度というのは、現在あるのか、それとも作られるのか。２種免許取得がないと乗務員になれないので、２種免許取得に助成をしている自治体があるにはあります。実施しますというのは、あるということでよろしいですか。

（事務局）
　今、市でこういうところに補助している制度はないですが、事業者でやっていただき、それに対して市としてどういうことができるのか一緒に考えていかないといけないというところで、このような書き方にしています。
　現時点では、こういう制度がない状況です。書き方を考えます。

（委員）
　８７ページからの計画の評価という言葉で、一般の人が聞くと、この計画はどうなのかという評価にとらえられるので、達成状況の評価とか、一般の方に分かるように言葉を足した方がいいかと思います。７１ページ、②で鉄道施設等の適切な維持管理について、私どものように鉄道の高架を持っているところは、この高架になっている施設の維持管理が非常に重荷になっており、運賃などにもかかってくるほど経営を圧迫している状況です。
　ここには、鉄道施設を適切に維持管理すると綺麗に書いてありますが、連続立体交差事業ということで、もう何十年も前に上に上がっているもので、普通に地べたを走っていればなかったものについて、維持するお金がずっとかなりの額かかっています。これは前の計画からずっと同じ形で掲載していると思いますが、計画の再度立ち上げという機会に、そういったことも見てくださる市民にもわかってもらいたいというのがあります。
　ここの部分で事務局と相談して、道路がスムーズにいくために鉄道施設で連続立体交差事業をして、それが今、非常に老朽化していって、お金が絶え間なくいる状況になっているというところを、ここに書き込んでいただけたらありがたいと思います。

（事務局）
　どういう書き方が一番ふさわしいのか事業者と相談したいと思います。

（議長）
　最初の計画の評価のところも、評価指標と評価の仕方と素直に書くか、考えてみてください。

〔協議事項〕
イ　今後のスケジュールについて
　事務局から説明（資料２）

（議長）
　ただいまの説明に対して、何か意見・質問あれば、挙手にて意思表示をお願いします。これによると、素案に対する委員からの意見募集というのは１２月中旬までということです。２週間ぐらいの間にくださいということですか。この会議は、このスケジュールの中ではどこでやることになるのですか。

（事務局）
　次回の公共交通会議は、３月中旬と考えています。

（議長）
　１月上旬までに、市の内部で調整して修正後の素案を委員に提出というのは、郵送かメールで示すのですか。
　それに対して意見は、出せるのですか。もらったらそのままなのですか。

（事務局）
　何かあればいただければと思います。

（議長）
　２月中旬のパブリックコメント、意見への対応について、これもメールか何か来るわけですか。

（事務局）
　意見への対応については、大きく変わるような部分があれば、委員に相談等、意見を伺おうと考えています。

（議長）
　会議としてやるのは３月の中旬の１回で、それ以前に２回ぐらいコンタクトがあるかもしれないということですね。

（委員）岡山運輸支局
　公共交通計画の関係ではないのですが、計画の中で話もあった、真備のコミュニティタクシーの補助金の関係で、毎年評価事業ということをやっており、その関係でまた委員に書類等を見ていただく機会を持ちたいと考えています。おそらく書面審議になると思いますが、国への提出が１月の上旬になっています。
　事務局は、よろしくお願いします。

（事務局）
　書面審議になろうかと思います。その時にはまたよろしくお願いします。

（議長）
　それは１２月中旬頃ですか。

（事務局）
　それぐらいを目処に考えています。

（議長）
　書面審議でも何でもいいので、そこできちんと審議していただかないことには、補助金がストップしてしまう。
　即日真備が止まってしまうということになるので、よろしくお願いいたします。では議事の（２）の報告事項の方に進みたいと思います。

〔報告事項〕
ア　路線バス・臨鉄無料デーの実施結果について
　　事務局から説明（資料３）

（議長）
　ただいまの説明に対して、何か意見・質問あれば、挙手にて意思表示をお願いします。

（委員）
　無料デーの利用者は、日ごろの利用者している人が多く使ったのか、新規の人が増えているのか、分かっているのですか。

（事務局）
　実際に、現地でいろいろ話を伺ったり、電話の問い合わせがあったりしたが、普段は乗らないが無料デーだから、例えば、高齢の方がお孫さんを連れていくとか、そういった問い合わせもたくさんありました。実際に水島臨海鉄道や路線バスに乗ったところ、普段は乗らないのかなという方がおられたと見受けられました。

（委員）
　無料デーを４回実施して、一つにはおそらく公共交通の利用促進という面があると思いますが、この結果を今後どういう形で生かしていくのか、どういう方向に持っていかれるのかというところを参考までに教えてもらいたいです。

（事務局）
　今回の結果で、ある一定の利用者の増加が見られ、公共交通を守っていくために効果があったと考えています。予算の都合等あり、なかなか来年度もやるということが正式には言えない状況ですが、こういった利用促進については今後も考えていきます。

（委員）
　利用日の設定ですが、何かイベントがあるから設定したのか、あとは、そのイベントによって増えているのでしょうか。比較日を１７日、１８日に設定した理由も教えて欲しいのですが。

（事務局）
　実際の実施日については、せっかく無料デーを実施することで、様々なイベントに合わせて実施することで、たくさんの人に乗っていただこうと、イベントを意識しながら設定しました。各事業者と調整しながらこの４日間に決めました。比較日については、１回目の９月２４日に対して、１週間前の通常日ということで、９月１７日の土曜日と９月１８日の日曜日に設定しました。

（委員）
　こういう催しがあったという記載があれば、わかりやすいと思う。

（議長）
　今、バス協会と観光コンベンションビューローから質問があったこと自体が驚きです。何のためにやったのかという質問に戻るのですが、観光だとか利用促進、そういうことかと思います。そこの方々と調整がほとんどされずに実施したと。そして、目標もよくわからないのですが、評価もできていないような気がします。観光であれば、観光目的で一体どういうような使われ方をされたのか、どこからどこへ行って、そこでどういう行動をして、どういうような観光の効果があったか、また来たいと思っている人はどれぐらいいるのかとか。
　あるいはバスの利用促進であれば、今まで乗っていない人はどれぐらいいて、今後バスが選択肢に入ってきたと思っている人がどれぐらいいるのかというような調査を当然やっているのですよね。

（事務局）
　その結果は、まだ今検証をしているところで、結果が出ていない状況です。

（議長）
　そもそも日にちの設定とか目標の設定とか、あるいはこういうことが行われるのであれば、商工会議所でも連動して調査をやっているかもしれないし、バス会社の方でもいろんなことやってもらったはずです。なので、そのあたりをきちんとこういう場で本当は報告して欲しかったし、結果を出すのであれば数字だけ出すのではなく、一体何を目的にして、その目的が達成されたのか今後どうしたいのかを、きちんと報告していただきたいです。
　隣の市でやったから真似してやったような雰囲気が漂っているので。その割には、きちんと事業者を巻き込んでやっているので、目標、検証、そのあたりが中途半端に見えています。やっているのであれば、やっているということをきちんと示してください。

〔報告事項〕
イ　井原線プレミアムチケットの売り上げ状況について
　　事務局から説明

（議長）
　ただいまの説明に対して、何か質問あれば、挙手にて意思表示をお願いします。
（委員の質問意見なし）
　議事のその他、事務局の何かありますか。

〔事務局から連絡事項〕

・地域公共交通計画のパブリックコメント募集について
・玉島地区バス路線の今後の協議について

（委員）
　岡山県が、お試し乗車券というのを１２月から３ヶ月間やる。小学校に配るということで、県内が対象なので県内の皆さんのところに配られますが、倉敷市内の人はできるだけ倉敷市内で使っていただき、市外の人も、倉敷市で使っていただきたいと思うところです。県の広報力がどのくらいなのか、我々にはまだ伝わっていないので、そこを見ながら、市の方でも、何か市の広報で市民に配るものが結構あったりすると思うので、そういったところで、広報の協力をしていただきたい。できるだけここに集まっている事業者での利用をしてもらえるような工夫をしてもらいたいです。

（事務局）
　広報について、どういうことができるのか事業者と相談していけたらと思っています。

（委員）
　できたら県とも相談をしてもらいたいです。

（議長）
　やはり県の事業なので、県の方のＰＲですね。市の方でどこまで積極的にできるのかですね。小学校の１～６年生に対して、冬休み前に、１人１，０００円分のチケットが配布されると。それが公共交通機関で使えて、本人だけではなく家族も使えると。ぜひそれを使って、例えば１年生とかは１人で乗せるのは不安かもしれないので、保護者の方と一緒に乗ってもらって、公共交通の利用体験に繋がって、次行く時は自分で払ってみようかとなることを期待しています。そして、子どもが公共交通に乗ったことがないまま大人になるということが非常に多いということで、そこに一石投じたいというようなことを、別の会議で説明を受けました。

（委員）
　今回小学生を対象に岡山県から無料チケットが配られるということで、従前から小学生対象にバスの乗り方教室を実施されていましたが、こういった別の形の乗り方教室的な、そういったＰＲができないかなとも考えますので、そう言った形で、また、活用をお願いできたらと思います。

（議長）
　以上をもちまして令和４年度第３回、倉敷地域公共交通会議を閉会いたします。